

## 第1回福島市中心市街地将来ビジョン検討委員会 議事録

1 日 時 平成30年6月4日（月） 14:15～16:00

2 場 所 福島市役所4階庁議室

3 出席者 委員

佐藤 滋 委員長、西内 みなみ 委員、石井 浩 委員、小林 勇一 委員  
引地 洲夫 委員、小河 日出男 委員、高橋 美奈子 委員、佐藤 玲子 委員  
山本 克也 委員

オブザーバー

小浪 尊宏、堀田 洋一、尾形 宗昭、武藤 泰典

4 内 容

(1) 開会

(2) 委員長及び副委員長選出

(3) 議事

①福島市中心市街地将来ビジョン検討委員会について

②中心市街地におけるまちづくりについて

③中心市街地の課題整理について

④今後の進め方について

(4) その他

(5) 閉会

5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

6 委員の主な発言

委 員

市が明確に方針をもってイメージしていることを改めて実感することができた。

この回遊イメージの中に短大があって340名の生徒が毎日「ももりんバス」、「徒歩」、「自転車」で移動している。実現に向けて官と民の連携に「学」も加えて、桜の聖母短期大学、福島大学、福島学院大学、福島学院短期大学、県立医科大学の5大学からなるプラットフォームを市と連携させたいと思う。

若い人達にとって居心地が良くて、ずっと住んでいたいなって思えるようなまちにしたい。

東京オリンピックも開催されるので外国人が迷わないようにしなければならないと思っている。

東口と西口はなんとか繋げてほしい。

また、分かりやすい目印で行けるようになればと思っている。

## 委員

福島駅に人を惹きつけるデータとして駅の乗降客数データがほしい。

こむこむから中合の回遊性を向上するための見直しも必要である。

風格があるというのは、具体的にイメージが湧かないので具体的なイメージを教えて貰いたい。

## 委員

過去にも意見をまとめた事があったが、昨今の事情を見ると圧倒的な勢いで再開発の準備が整ってきている。

残念なのが、今年の3月をもって公会堂が耐震問題等で閉館したことである。

皆が必死になって実現しようという情熱や浪漫がないと、出来ないので本当に最初で最後のチャンスだと思う。

まちづくりは、5年・10年と将来を見据えて進めないといけないと思う。

私は、後々の世代に福島に誇りを持っていいまちだと思えるようにしたい。

## 委員

駅を中心に公共施設と行政施設を考えた場合、駐車場が少ない。

駅を中心に若者が集まれるような魅力的なものを考える必要がある。

懸案はあるが積極的に魅力的な物を考えて、若者には負の遺産を残さないようにしなければならない。

若者の為にどう考えて集客するにはどうするかも含め、進めて行く事が必要である。

## 委員

人口・産業を増やし税収を増やすためには、産業の誘致が必要である。

福島市のアクセスの良さを生かし企業を誘致し、家族に住んでもらうための住みやすい環境づくりが必要である。

アクセスの良さから大きなコンベンションホールを駅前に持ってきても宿泊施設が足りない。

施設を単体で作るのではなく、図書館・公会堂・学習センターを一緒にする複合施設やスポーツ施設（サッカースタジアム）と医療施設の融合などの夢があってもいい。

## 委員

福島市で国際会議を開く場合、非常に厳しい状況がある。

国際会議は、MIES（ビジネスイベント総称）機能と言って国賓級の方を対象にするには、最低5つ星の宿が5～6か所ほしい。

国際会議となると仙台ですら難しい状態であり、日本でも北海道、福岡、沖縄に限られた地域だけになる。

他の地域と競わない違うビジョンを持って、いろんな方々を対象にした方がいいと考える。

インターンで各地域から、実際に就業体験をしていただいて、交流人口から定住人口に繋がればと思う。

成功している都市は、全国に数か所ありそういったことを福島が目指すことも考える必要がある。

インバウンド、海外からの交流人口の拡大を図る必要もある。

福島という名前は、世界の中でとても辛い、あまりよくない名前かもしれないが、それを逆手に取って数十年後に少なくとも未来に、辛い思いをした福島がすばらしくなっているのを世界に発信し未来に残せるようにしたい。

#### 委員

子育てがしたいと思わせる仕掛け作りが必要である。

東日本大震災の原発事故があっても、ここで住み、子育てをしようと思っている人達を、今後を担ってくれる人達を応援する必要がある。

3年前にバリアフリー観光推進全国フォーラムを福島市で開催した際、他県からいらした車イスの方に屋台村の雰囲気がとても好評だった。しかし、車イスで利用できるトイレは近くのパセナカミッセのものが25時まで利用できるのに、駅の東西通路が24時までしか通れず、西口のホテルに泊まった方は西町陸橋か太田町ガード下を通るか遠回りしなければならず、「24時前までにホテルに帰られるよう」案内せざるをえなかった。

人にやさしいまちづくりや夜の街も充実しようとするなら、もっと弱者の視点が必要である。

#### 委員

中心市街地の将来ビジョンは、駅東口で構想が進められている再開発の街区は、非常に大事な場所だと思う。

再開発の機運の高まりというのがかなり速いスピードで進んでいるようである。

これは千載一遇のチャンスなのだろうと思っている。今後、公共施設の再編整備の検討の中で、老朽化したいくつかの公共施設の機能更新とコンベンション機能を強化していかなくてはいけないという議論が出てくると思う。

そういう中で再開発構想の検討であったり、スケジュール感を持って再開発準備組合の話聞き、福島市として連携がしていけるのか把握し、それを踏まえて将来ビジョンを描いていくことが必要になる。

再開発のことは非常に注視して情報収集、意見交換をしていきたいと思っている。

#### 事務局

官民学は要望として承りたいと思う。

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、東口、西口が分かりやすい目印等サイン案内等、駅降りた時の動線について検討したいと考えている。

風格ある県都ふくしまについては、次回に話させていただければと思う。

次回、再開発事業者の方に行政からの言葉でなくて民間が考えていることを説明していただきたいと思っている。

#### 委員

中心市街地の取り組みとして、こむこむ館と福島県立医科大学新学部、それから福島駅北の看護専門学校もあるので教育という観点からは整っていることは評価したい。

また、中心市街地内には大きな病院も2つあり、保健所も中心市街地にある。

ただし、わくわくする施設がないということが1つ欠けていることだと思う。

委員長

中心市街地の活性化計画というのはある種、空間戦略として見ると、福島は面的に広がっていて、それで都市基盤はしっかり整備されていて、そういった中でいろいろなものを配置し取り組んでいる。

次の段階で市街地の社会状況の変化の中で、もう一度、狭い範囲で凝縮的に考えていくことも必要な時期なのではないかと思う。

全体に配置されているものをどのように繋げ、全体としてつくり上げて核を形成し検討することが委員会の役割なのではないかと思う。